

特別企画：四国地区 紙・不織布製品メーカー主要 20 社 業績動向調査 (2019 年度)

2019 年度の業績 売上高合計は過去 5 年で最高

～利益額合計は 3 年連続で減少～

はじめに

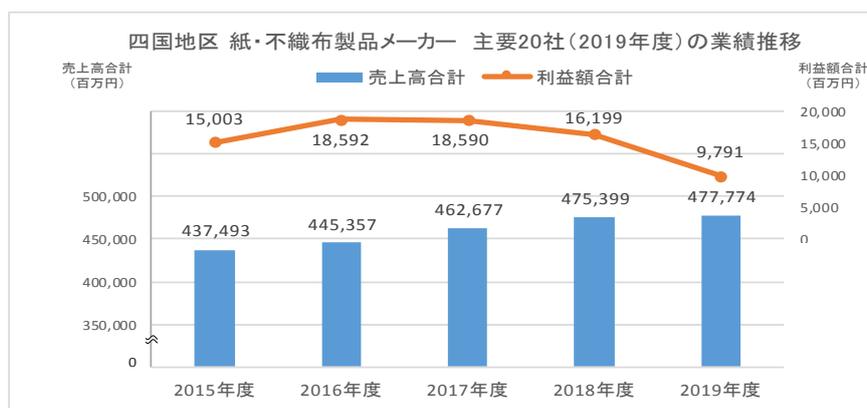
電子媒体の利用拡大やペーパーレス化による印刷物の減少などで、印刷・情報用紙の需要が減少する一方で、ネット通販の拡大などで段ボール需要は増加している。また、環境負荷を軽減するため、脱プラスチックの動きが進み、外食産業ではストローを、小売店ではビニールの買い物袋を紙製品に置き換える企業もあった。加えて、新型コロナウイルス感染拡大の影響で、マスクやウェットティッシュなど不織布製衛生関連商品への需要が高まっている。需要構造が変化するなか、紙・不織布製品メーカーでは、こうした動きに対応すべく、コストを抑えるとともに耐久性を高めた製品や素材の開発を進めている。

今回、帝国データバンク高松支店は、紙・不織布製品メーカーの業績動向を探るため、2020 年 9 月末時点の企業概要ファイル「COSMOS2」（147 万社収録）の中から、2015 年度（2015 年 4 月期～2016 年 3 月期）から 2019 年度（2019 年 4 月期～2020 年 3 月期）まで 5 年間の決算の売上高と利益額が比較可能な、四国地区に本社が所在する紙製品メーカー主要 20 社を抽出し、売上高別、利益額（当期純利益）別、売上高ランキングについて分析した。

※分析対象は TDB 産業分類・中分類で「パルプ・紙・紙加工品製造業」を主業とする企業

調査結果（要旨）

1. 2019 年度の売上高合計は 4,777 億 7,400 万円
前年度と比べて 23 億 7500 万円（0.5%）多く、過去 5 年で最高に
2. 2019 年度の利益額合計は 97 億 9,100 万円
前年度と比べて 64 億 800 万円（39.6%）少なく、3 年連続で減少



1.売上高合計推移、過去5年で最高

四国地区に本社が所在する紙・不織布製品メーカー主要 20 社について、2015 年度～2019 年度決算の売上高合計をみると、2019 年度は 4,777 億 7,400 万円となり、前年度と比べて 23 億 7,500 万円 (0.5%) 多く、過去5年で最高となった。

売上高トップはユニ・チャームプロダクツ (株) (香川県) の 1,658 億 9,800 万円で、唯一 1,000 億円以上となっている。次いで、丸住製紙 (株) (愛媛県、594 億 8,300 万円)、(株) リブドゥコーポレーション (愛媛県、487 億 100 万円) が続いた。

主要 20 社の増減収の内訳をみると、増収の社数は前年度から 1 社増の 13 社、減収は 7 社であった。2019 年度の売上高の伸び率トップは、フェイシャルマスクやウェットティッシュなどの製造を行っている (株) カナエテクノス (香川県、18.2%増) で、国内需要の高まりを受注増に繋げた。次いで、化粧シートやフェイスマスクなどの製造を行っている明星産商 (株) (高知県、9.2%増)、紙の断裁加工などを行っている (有) S P C (愛媛県、8.4%増) が続き、伸び率上位 3 位までは不織布製品を主に製造している企業が占めた。

年度	売上高合計 (百万円)	前年度比 (%)	増減収の社数(前年度比)	
			増収	減収
2015年度	437,493	14.7	16	4
2016年度	445,357	1.8	11	9
2017年度	462,677	3.9	13	7
2018年度	475,399	2.7	12	8
2019年度	477,774	0.5	13	7

2.利益額合計推移、3年連続で減少

2015 年度～2019 年度決算の利益額合計 (当期純利益) をみると、2019 年度は 97 億 9,100 万円となり、前年度と比べて 64 億 800 万円 (39.6%) 少なく、3年連続で減少した。

主要 20 社の増減益の内訳をみると、増益の社数は前年度より 2 社多い 11 社となり、減益は 9 社に減少した。増収効果などで増益となった企業があった一方、原材料価格の上昇や製造設備の除却・売却損などで大幅な減益を余儀なくされた企業がみられた。

年度	利益額合計 (百万円)	前年度比 (%)	増減益の社数(前年度比)	
			増益	減益
2015年度	15,003	49.9	13	7
2016年度	18,592	23.9	12	8
2017年度	18,590	▲ 0.0	8	12
2018年度	16,199	▲ 12.9	9	11
2019年度	9,791	▲ 39.6	11	9

3.まとめ

今回の調査で、四国地区に本社が所在する紙・不織布製品メーカー主要 20 社における 2019 年度の売上高合計は、過去 5 年で最高となった。電子媒体の利用拡大やペーパーレス化による印刷物の減少などで、印刷・情報用紙の需要が減少するなか、ネット通販の拡大による段ボール需要の増加に加え、マスクやウェットティッシュなど不織布製品への需要の高まりもあり、全体の売上高を押し上げている。

ただ、2020 年度に入っては、新型コロナウイルス感染拡大の影響で、マスクなどの不織布製品に対する需要がさらに高まっているが、イベントの中止や延期のほか、外出自粛やテレワークの普及などから広告チラシ用途の印刷用紙並びに情報用紙の需要減がみられている。また、個人消費の落ち込みから、同業者間の受注競争や価格競争も激しさを増すものと思われ、原材料の調達コストを大きく左右する為替相場の推移も含めて今後の動向を見守りたい。

<参考>

四国地区 紙・不織布製品メーカー 主要20社 2019年度売上高ランキング (単位:百万円)

順位	商号	所在地	年売上高 (2019年度)	前年度比 増減
1	ユニ・チャームプロダクツ 株式会社	香川県	165,898	↑
2	丸住製紙 株式会社	愛媛県	59,483	↓
3	株式会社 リブドウコーポレーション	愛媛県	48,701	↑
4	エリエールプロダクト 株式会社	愛媛県	45,421	↓
5	ユニ・チャーム国光ノンウーヴン 株式会社	香川県	20,384	↑
6	大塚包装工業 株式会社	徳島県	15,211	↑
7	明星産商 株式会社	高知県	14,687	↑
8	ニッポン高度紙工業 株式会社	高知県	12,795	↓
9	新タック化成 株式会社	香川県	12,000	↓
10	阿波製紙 株式会社	徳島県	11,788	↓
11	昭和紙工 株式会社	香川県	9,839	↓
12	株式会社 丸和	愛媛県	9,639	↑
13	株式会社 カナエテクノス	香川県	8,662	↑
14	株式会社 トーヨ	愛媛県	8,451	↓
15	三木特種製紙 株式会社	愛媛県	6,932	↑
16	株式会社 朝日段ボール	香川県	6,445	↑
17	エヌ・アンド・イー 株式会社	徳島県	5,737	↑
18	有限会社 SPC	愛媛県	5,636	↑
19	愛媛小林製薬 株式会社	愛媛県	5,155	↑
20	ダイオーミルサポート 株式会社	愛媛県	4,910	↑

【 内容に関する問い合わせ先 】

株式会社帝国データバンク 高松支店 担当：須賀原 欣彦、青木 真人

TEL : 087-851-1571 FAX : 087-851-3837

当レポートの著作権は株式会社帝国データバンクに帰属します。

当レポートはプレスリリース用資料として作成しております。報道目的以外の利用につきましては、著作権法の範囲内でご利用いただき、私的利用を超えた複製および転載を固く禁じます。